

# 豊前市のまちづくり

< H22 年度 豊前市都市計画マスタープラン >

～都市計画に関する基本的な方針～

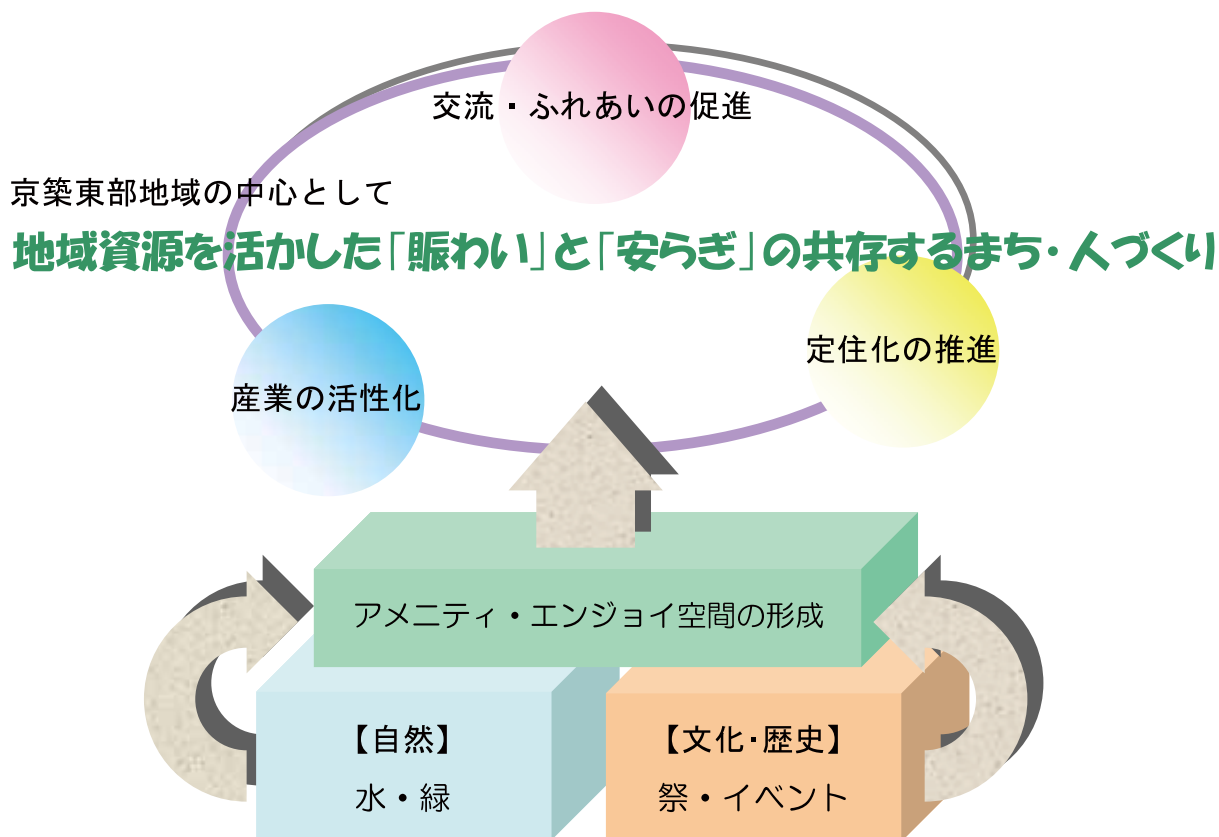
概要版

平成 23 年 3 月

福岡県 豊前市

# まちづくりのテーマ

## 豊前市の将来像の考え方



市内の各地域が有する自然や文化・歴史など独自の個性をこれまで以上にまちづくりへ積極的に活用し、快適かつ楽しめる空間を創出することにより地域そして市全体の魅力を向上を図ります。宇島駅周辺は、コンパクトなエリアに多彩な都市機能を集積し、豊前および京築東部地域の中心拠点としての役割を担っていきます。松江および三毛門地域は、東西の玄関口として住宅および工業や観光業などの産業を活かした地域づくりを推進します。また東九州自動車道の豊前 IC 周辺は、豊かな自然を活かしながら豊前の新しい顔としての地域づくりを進めます。一方求菩提をはじめとした山間部は、その雄大な自然および修験道をはじめとした文化・歴史を活かしたふれあい交流空間や景観計画にもとづいた景観の形成を図ります。また周防灘が広がる海岸部は、工・水産業と豊かな自然が共存する親水空間としての整備を推進します。

このように豊前は各地域が様々な顔を持っており、それぞれの個性をまちづくりへ活かすことにより、「交流・ふれあいの促進」「産業の活性化」「定住化の推進」などを図り、賑わいと安らぎを市内各地で創出・提供し、それらの連携・ネットワークを強化することにより両者が共存する活力あるまちを創造していきます。また今後のまちづくりには市民の参加が必要であり、意識改革の推進や地域リーダーの育成などひとづくりを同時に進めていきます。

# 将来の都市構造

豊前市のまちづくりにおいては、市内を大きく3つにゾーン区分し、それぞれのゾーンの特性を生かした地域づくりを推進します。3つのゾーンは、「やま」「まち」「うみ」に分けており、自然的・歴史的・都市的な資源を活用した環境づくりを官民一体となって取り組みます。

## 市全体

**「うみ」ゾーン… 海岸部の豊かな自然との調和を図りながら、工業や水産業が展開される環境共生地域を創出する**

- ◎産業の活性化を目指した基盤整備の推進（道路など）
- ◎海岸部に残る良好な自然環境の保全
- ◎親水空間として最小限の整備および中心拠点の部分的な整備

**「まち」ゾーン…**

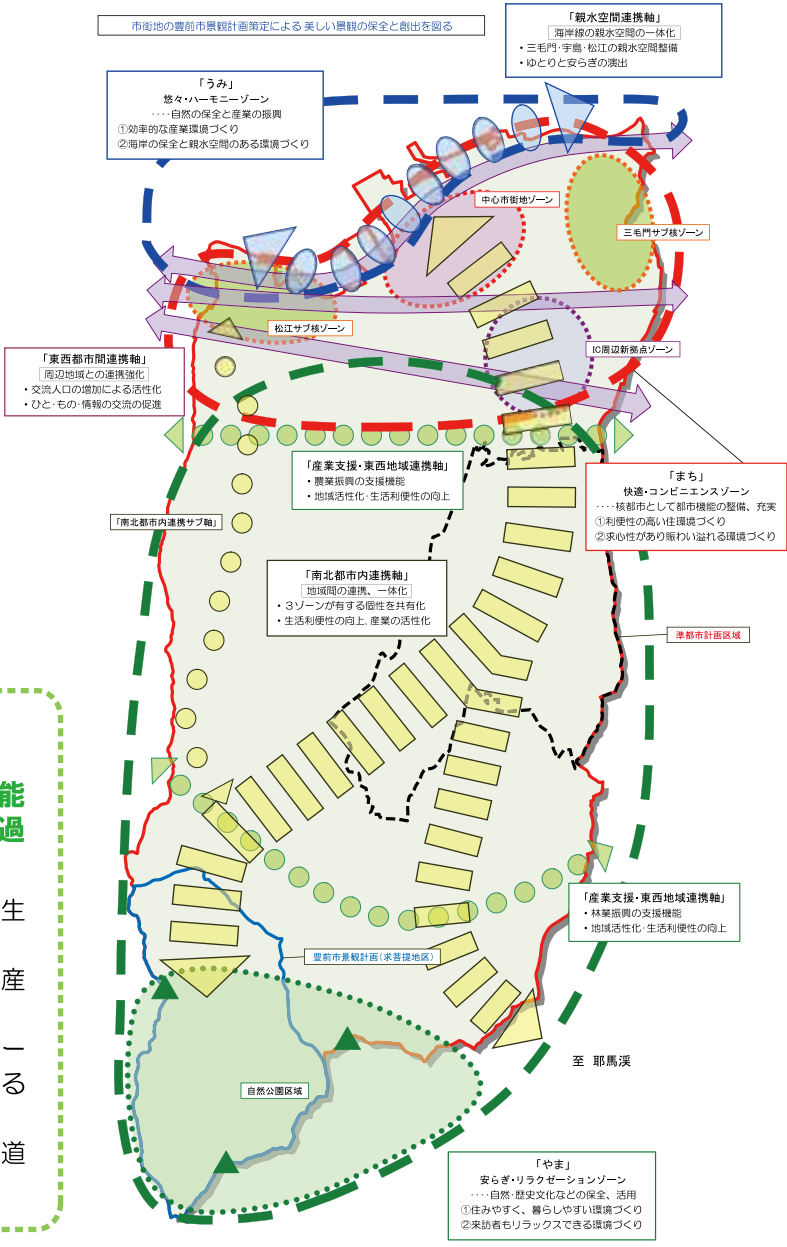
**都市機能の集積、各種産業の充実、周辺地域との連携強化により求心性があり魅力的な「まち」を創出する**

- ◎道路（幹線～生活道路）、公園など基盤整備の推進
- ◎商業機能の充実、商業の活性化
- ◎文化・スポーツ施設など公共施設の整備充実、就業・教育施設の整備充実
- ◎豊前市の顔づくり、京築東部地域の中心としての顔づくり

**「やま」ゾーン…**

**自然などが持つ安らぎや保養機能をいかし、住民や訪れた方々が過ごしやすい環境を創造する**

- ◎生活道路や公園、排水施設など生活環境施設の整備充実
- ◎林業や農業の活性化を目指した産業基盤施設の整備
- ◎自然や歴史文化など資源のアピールと最小限の施設整備などによる回遊性の確保
- ◎周辺市町村との連携強化（幹線道路の整備など）



## 都市計画区域



都市計画区域は、市全体における「まち」ゾーンに相当します。ゾーン内に点在する地域資源を適地にて活用・展開し、「賑わい」と「安らぎ」の共存したまちづくりを推進します。都市計画区域においては、4つの大ゾーンに区分し特性をいかしたまちづくりを展開します。

### 「中心市街地ゾーン」…

都市機能の集積を図るとともに都市基盤施設の整備を推進する。また、市および京築東部地域の中心拠点として魅力あるまちづくりを推進し、求心性の向上を図ります。

### 「三毛門サブ核ゾーン」…

東部からの玄関口として、農地と調和のとれた住宅および内陸型の工業の集約等を図ります。

### 「松江サブ核ゾーン」…

西部からの玄関口として、道の駅をいかした交流拠点の充実、閑静な住宅地の形成及び地域住民を対象とした公的サービスの充実等を図ります。

### 「IC周辺新拠点ゾーン」…

情報発信拠点の整備を図るとともに、「やま」ゾーンと「まち」ゾーンの結節点として周辺自然環境に配慮した新たな「顔づくり」をすすめます。

また、4つの大ゾーン以外には、「中心市街地ゾーン」「三毛門サブ核ゾーン」「松江サブ核ゾーン」「IC周辺新拠点ゾーン」を位置づけており、水や緑などの自然環境や広域的な交通利便性などをいかした地域づくりを各ゾーンで展開します。

さらに、それぞれのゾーンで地域づくりをすすめると同時に、前記したゾーンやゾーン内にある拠点施設等をネットワークする「軸」を明確化し、それぞれの資源が持つ個性・魅力を連携した地域の活性化および地域振興を推進します。その中で特に「中心連携軸」は、市の主要施設や中心市街地を結ぶ大動脈であるとともに、広域的な連携軸でもあり、ひと・もの・情報の行き交う軸として地域、ひいては市全体の活性化へ向けて整備・充実を図ります。

## 市街地

### 1. 中心商業ゾーン

宇島駅周辺（南部）については、商業を中心とした都市機能の集約や公園・駅前広場の整備などを推進し、交流・ふれあいによる賑わいや潤いがある豊前らしい市街地の形成を図るとともに、市民が享受できる公的サービス（公共施設など）の集積も図ります。

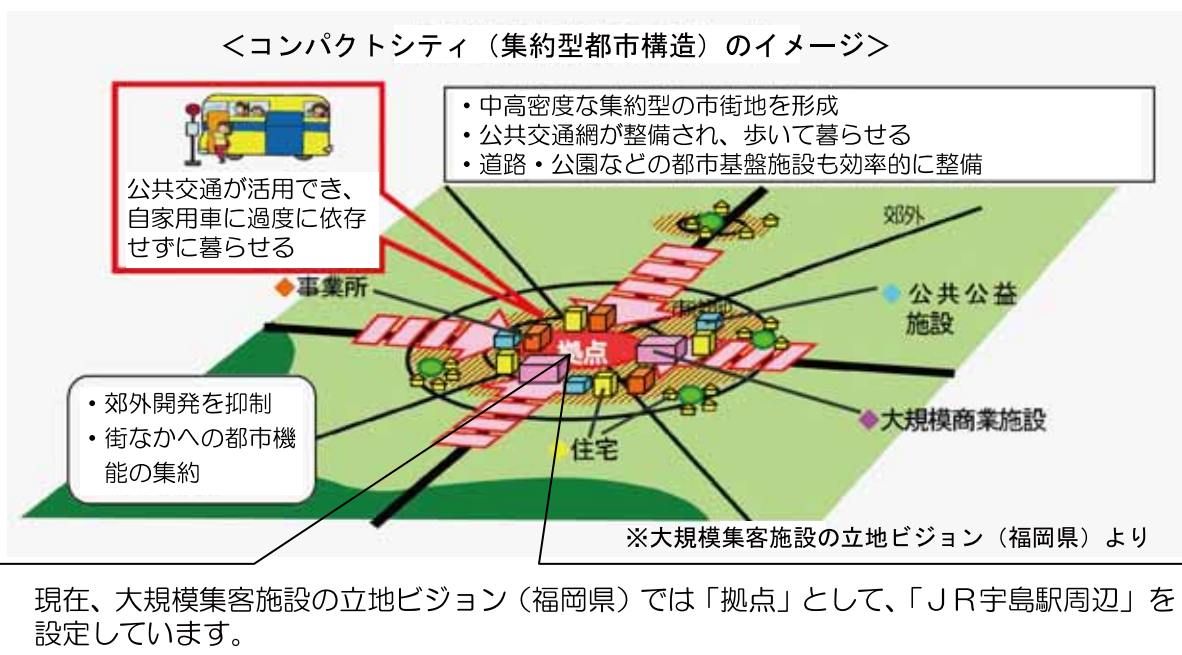
また、今後の都市づくりにおいては、コンパクトシティや低炭素社会の実現を目的とした中心市街地の活性化に資する施策（コミュニティバスや公共交通機関の推進、歩行者・自転車などに考慮したまちづくり、公共公益施設の集約化など）を展開しつつ、市街地内での低未利用地の活用を推進します。

### 2. 都市型機能複合ゾーン

中心市街地に近接した地理的特性を活かし、中高層住宅と一戸建住宅が調和する居住機能を中心に、近隣型の商業・業務機能や文化・教育機能などの都市型機能が共存するゾーンとして位置づけます。ゾーン内の北西～南部にかけての低未利用地は、計画的な住宅、公的サービス施設整備などを行うとともに、周辺の緑とも調和を図り、ゆとりと安らぎのある良好な住環境の形成を推進します。また、既存の住宅地や旧来からの商業地（旧々10号沿道）などは、地域のコミュニティーや昔ながらの良好な街並みを残しながら、災害に強い都市基盤施設の充実を図ります。

### 3. 沿岸工業ゾーン

宇島港を中心に既存工業の振興を図ります。そのための産業基盤の整備として、新ICや国道10号とのアクセスに配慮した都市計画道路の整備を推進します。また、海岸部の自然環境にも配慮した工業の展開を図ります。



※本市独自で、商店街・北高校跡地などまでのエリアを拠点に準ずるものと位置づけ、上記拠点と一体的な施策を展開し、コンパクトシティ（集約型都市構造）の実現を目指します。



# 地域別のまちづくり方針

豊前市における『地域』は、「地形などの自然的条件」、「コミュニティ」、「土地利用」、「日常的な生活圏」などの観点より、小学校区を基礎単位として全体を5つに区分しました。以下に各地域の「まちづくりの目標」「方針」について整理します。



## 各地域づくりの目標

### <宇島・八屋地域>

- 賑わいのある豊前および京築の中心地域づくり
- ふれあい、支えあうコミュニティのある地域づくり

### <三毛門・千束・黒土地域>

- 豊かで健やかな人を育む文化・教育の盛んな地域づくり
- 快適で利便性が高く住みよい安心の地域づくり

### <山田・大村地域>

- 快適で利便性が高く住みよい安心の地域づくり
- 伝統的な芸能や歴史等を活かした文化の香り高い地域づくり

### <角田地域>

- 身近な水や緑とふれあえ、ゆとりと安らぎを感じる地域づくり
- 農林水産業などを活かした豊かで活力ある地域づくり

### <横武・合河・岩屋地域>

- 地域の資源（自然や歴史）を活かした賑わいあふれる地域づくり
- 地域の自然を保全し、環境と共生した健康・衛生の地域づくり

## 宇島・八屋地域 ●賑わいのある豊前および京築の中心地域づくり ●ふれあい、支えあうコミュニティのある地域づくり

宇島駅および駅南の市街地を中心に公園や公共施設など公的なサービス施設を適切に配置するとともに、時代や住民ニーズに適した商業の活性化を図りつつ、（県）中津豊前線、（都）宇島駅前線、旧々国道 10 号などを用いた歩行者の回遊性を創出することにより、歩いて楽しいコンパクトで賑わいあふれる中心市街地の形成を目指します。

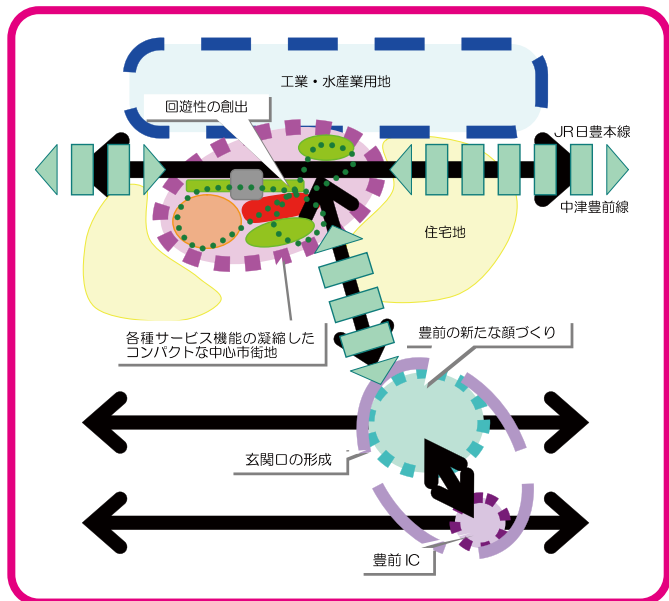
またその周辺部にはそれらの都市的なサービス機能を楽しむことができる利便性の高い住宅地を形成するとともに、海岸部は、工業および水産業の用地として周辺の自然環境と調和した産業の振興を推進します。

広域的には、本地域へのアクセスとして、（県）中津豊前線および JR 日豊本線を活かした東西の連携を図るとともに、新規に整備される IC の周辺部（豊前市の新しい顔として地域づくりを推進）とのアクセスを充実させ、中心市街地のさらなる賑わいを創出します。

特に、都市計画道路の見直しを検討し、今後の将来像にふさわしい道路網を配置します。

なお、今後の都市づくりにおいては、コンパクトシティや低炭素社会の実現を目的とした中心市街地の活性化に資する施策（コミュニティバスや公共交通機関の推進、歩行者・自転車等に考慮したまちづくり、公共施設集約化など）を展開しつつ、市街地内での低未利用地の活用を推進します。

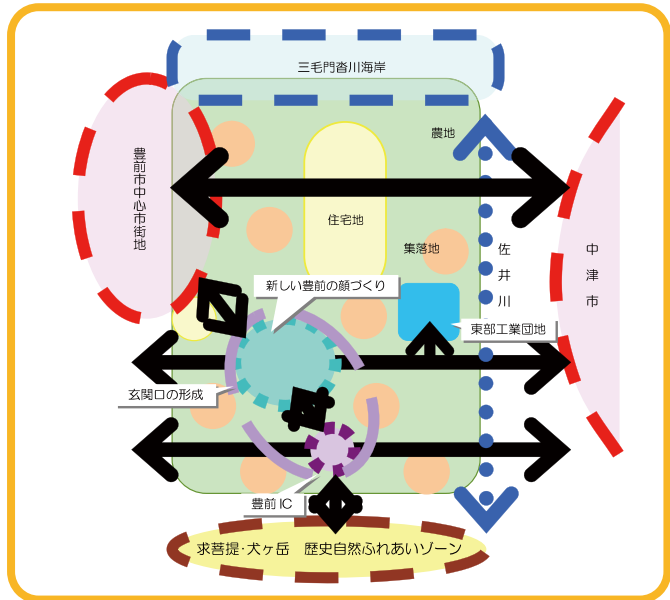
次に、社会環境の変貌に伴い、そこに発生する災害の態様も、多様化、複雑化の傾向にあり、都市化の進展に伴い新たな災害発生が予想されるため、「豊前市地域防災計画」（H21）を基本として、災害に強いまちづくりを推進します。



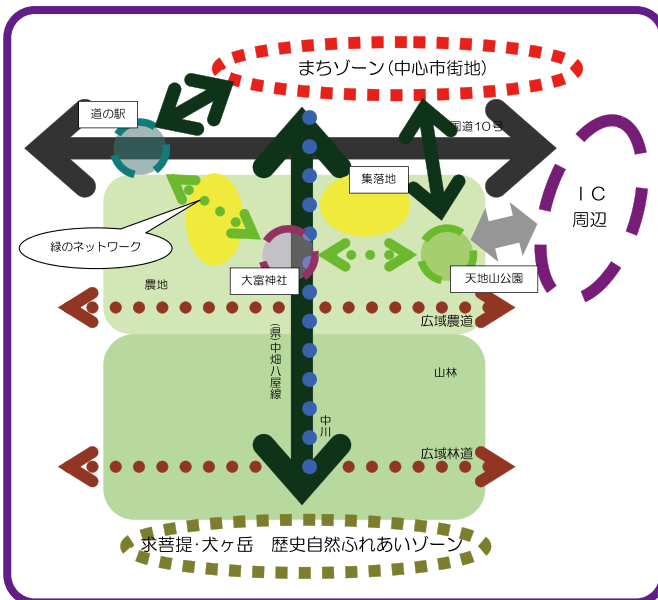
## 三毛門・千束・黒土地域 ●豊かで健やかな人を育む文化・教育の盛んな地域づくり ●快適で利便性が高く住みよい安心の地域づくり

地域の大部分を占める農地および河川・海・池の水辺等の自然を保全し、自然環境と調和したゆとりと安らぎのある良好な住環境を形成します。また生活利便性の向上を目指し、西に位置する本市の中心市街地（一部当地域含む）および東の中津市との連携を強化します。

広域的には、東からの玄関口であることに加え、東九州自動車道新 IC の整備により、将来的には市全体の玄関口としての役割を担っていくため、「中心市街地」や「歴史自然ふれあいゾーン（求菩提など）」の情報を発信するなど IC 周辺および国道 10 号沿道で新しい豊前の顔づくりを推進し、当地域と両ゾーンの連携の強化を図ります。なお、三毛門・沓川の海岸部は、極力自然環境を残すとともに、市民が憩う親水空間の整備をすすめます。



## 山田・大村地域 ●快適で利便性が高く住みよい安心の地域づくり ●伝統的な芸能や歴史等を活かした文化の香り高い地域づくり



山田および大村の集落地の周辺に位置する「天地山公園」、「大富神社」、「道の駅豊前おこしかけ」などの地域資源を緑のネットワーク（歩行者軸）で連携し、自然や歴史を活かした良好な住環境の整備を推進します。また、道の駅を含め国道 10 号沿道は、主に自動車交通を対象とした商業・業務施設と豊かな緑との調和を図り、潤いとともに安らぎを感じる沿道づくりを推進します。

広域的には、本地域は、北に豊前市の中心市街地を含む『まちゾーン』、南には豊前を代表する歴史資源を有する『歴史自然ふれあいゾーン』が位置しているものの、現在は両地域との連携は弱く、南北のつながりの強化が必要と考えられます。そのため今後は両ゾーンとの連携を強める南北軸を明確にし、両ゾーンへ本地域の魅力をアピールすること

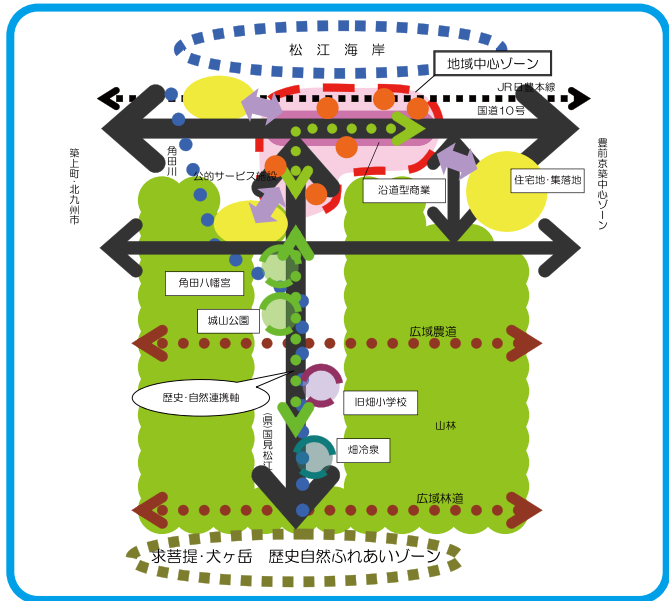
により、交流を促進し活力とにぎわいのある地域を創造していきます。また新たに整備される IC との連携も強化し、域的な交通利便性の向上も図っていきます。



## 角田地域 ●身近な水や緑とふれあえ、ゆとりと安らぎを感じる地域づくり ●農林水産業などを活かした豊かで活力ある地域づくり

角田地域の中心地として、JR 豊前松江駅～角田小学校周辺を『地域中心ゾーン』と位置づけ、地域住民を対象とした公的サービスの充実、沿道型商業の集積（国道 10 号）、およびそれら各種サービス機能の連携を歩行者ネットワークの充実により連携し、潤いある中心ゾーンを形成します。またその周囲に位置する集落地や住宅地との連携強化により地域住民の生活環境の向上を図ります。その他、角田八幡宮、城山公園および畑冷泉など地域内に点在する地域資源を歴史・自然連携軸でつなぎ、自然や歴史を活かした安らぎのある地域環境の形成を図ります。

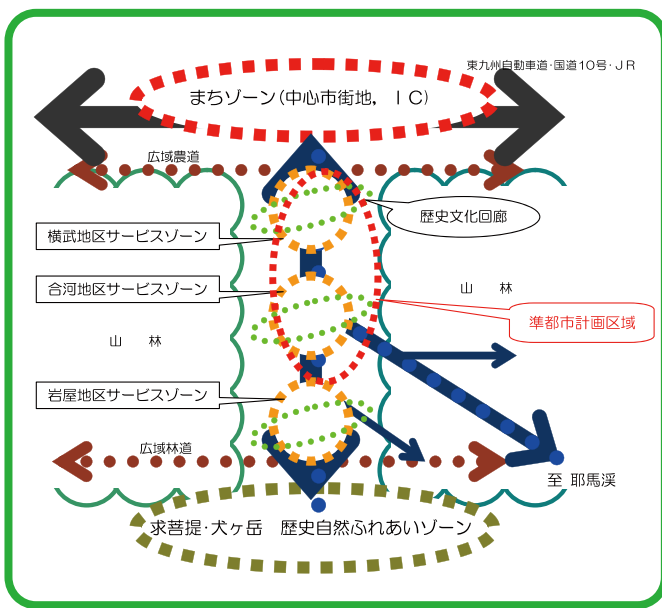
一方広域的には、地域南部に『歴史自然ふれあいゾーン』が位置しているものの、本地域との連携は弱く、南北のつながりの強化による地域の活性化を図ります。そのため今後は求菩提との連携を強める南北軸を明確にするとともに、西の築上町や本市の中心市街地との連携も強化し、本地域の魅力をアピールし活力と賑わいのある地域を創造していきます。



## 横武・合河・岩屋地域 ●地域の資源（自然や歴史）を活かした賑わいあふれる地域づくり ●地域の自然を保全し、環境と共生した健康・衛生の地域づくり

賑わいあふれる地域づくりを進めるため、地域の最南端に位置する求菩提関連の資源を積極的に活用します。求菩提の歴史・文化・自然とふれあう拠点づくりを積極的に進め、地域を訪れる人々の交流を創出します。地域の北部には東九州自動車道豊前インター等の交通拠点、および豊前市の中心市街地があり多くの人々が住み、集うゾーン（まちゾーン）が位置づけられているため、それらの人々などが本地域を訪れるような魅力づくりを推進します。

そのため本地域では、『歴史自然ふれあいゾーン（南）』と『まちゾーン（北）』をつなぐ軸（（主）豊前犀川線、佐井川・岩岳川など）を明確にし、その軸上に位置する横武・合河・岩屋の各地区に生活サービス機能を充実させ（地区サービスゾーン）、住民の安全・快適かつ健康的な生活環境を創出します。また、各地区に点在する如法寺、千手観音、白山神社（大楠）、清原自然公園、岩洞窟などの地域資源をそれぞれの地区内で連携（歴史文化回廊）させ、歴史・自然などの資源を活用した地区づくりを進めます。その他、地域の大部分を占める山林や河川等の自然は、保全に努めると同時に、最小限の整備により、ひとが自然と親しむことが出来る魅力ある空間を創出します。



# 整備プログラム

分野ごとの主な整備プログラムおよび今後の展開などについて以下に整理します。

## 土地利用

整備事業等	今後の展開(案)	時期	主体
用途地域の見直し	・本計画における「土地利用計画」に基づく用途地域の見直しの検討	中期	住民 行政
都市計画区域などと農業振興地域整備計画の見直し	・農振計画書の作成を行う	継続 (H19～H22)	行政
市有地の有効活用	・未利用地の売却及び有効活用を行う	短期(H24)	行政
高校跡地利用	・跡地利用の検討をおこない、市が活性化する利用を行う	継続(H21～)	行政

## 道路・交通

整備事業等	今後の展開(案)	時期	主体
都市計画道路の見直し	・本計画をもとに都市計画道路の整備計画を見直す	継続(H19～H24)	行政
長寿命化修繕計画策定事業	・道路橋の長寿命化修繕計画の策定	継続(H21～H23)	行政
都市計画道路整備事業	・臨海工業線、上町沓川池線、宇島久路土線などの整備	継続	行政
社会資本整備総合交付金事業	・社会資本総合整備計画に基づき計画的に市道の整備を行う	新規(H24～)	行政

## 公園・緑地

整備事業等	今後の展開(案)	時期	主体
公園・ポケットパーク、親水広場などの配置(新規含め)検討	・土地利用や市街化の発展などに配慮し、バランスよく適材適所に配置	長期	住民 行政
既存公園内の施設・緑などの改善・管理	・既存公園の今後の整備・管理方針を検討 ・公園施設長寿命化計画の策定	早期	住民 行政
公園内の既存施設・緑の補修・改善	・補修・改善の方針に基づいた整備	中期	行政
都市公園安全・安心対策緊急総合支援事業	・都市公園(天地山公園・平池公園)内遊具・施設の更新及び施設のバリアフリー化	新規 (H23～H25)	行政

## 自然・歴史資源・環境保全

整備事業等	今後の展開(案)	時期	主体
地域資源(社寺など)を活かした活性化の検討	・地域資源を活かした活性化方針を整理する ・「豊前市観光振興計画」などの策定	中期	住民 行政
豊前市地球温暖化対策実行計画	・温室効果ガス排出量の削減 ・H27年度までにH21年度比6%削減	中期	行政
観光資源の整備	・自然・特産品・史跡・伝統芸能などを掘り起こし魅力的な観光資源の整備を行う	継続 (H19～H24)	行政
地域資源のPR活動の実施	・史跡ボランティアなどへ支援を行いつつ新たなガイドボランティア団体を増加	継続 (H19～H24)	行政 民間
	・マスコミを利用した効果的な宣伝を広域的に行う	早期	民間 行政
	・情報収集・一元化・蓄積を行い、タイムリーな情報提供を図る	早期	行政

## その他の事業

- 上水道・下水道・排水施設(豊前市上水道事業, 豊前市公共下水道事業)
- 河川・海岸・ため池(宇島港および各漁港の整備・充実, 農村環境整備事業)
- 市街地整備(中心市街地活性化事業, 宅地内の緑化(保存・創出))
- 公共公益施設(住宅・住宅地の整備, 既存の施設・建物の保存・活用)
- 景観形成(豊前市景観計画等)
- 都市防災(豊前市地域防災計画, 防災行政無線等整備事業)
- その他の活動(街並み美化検討(ポイ捨ての禁止), バリアフリー化の検討)

# 住民意識調査

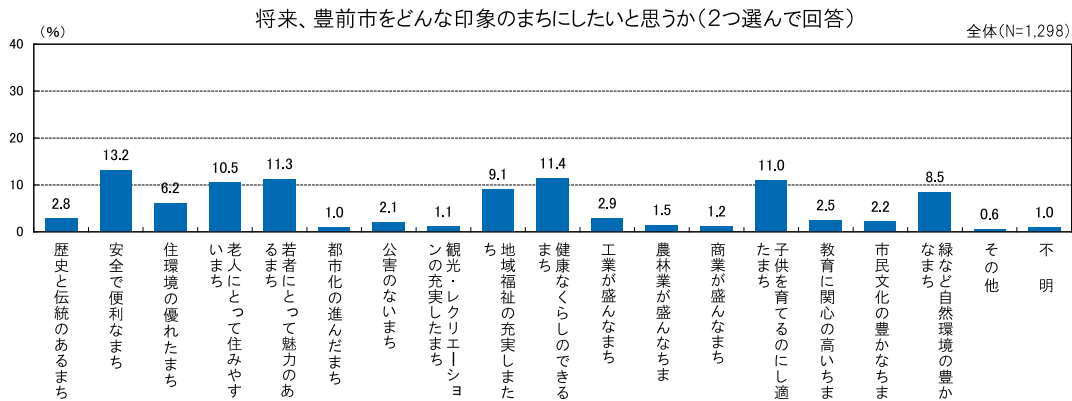
住民のまちづくりに関する意向を以下に整理します。(住民意識調査を平成 21 年 12 月に 1,500 人(回収率 43.3%)を対象に実施しました。)

## 【集計上の注意点】

- ・集計については、設問ごとに無回答を除いた基数(該当数)を 100%としている。
- ・複数回答の設問は、無回答を除いた回答数合計を母数としている。
- ・集計は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、回答比率の合計は必ずしも 100%にならない場合がある。

## ■将来像(どんな印象のまちにしたいか)

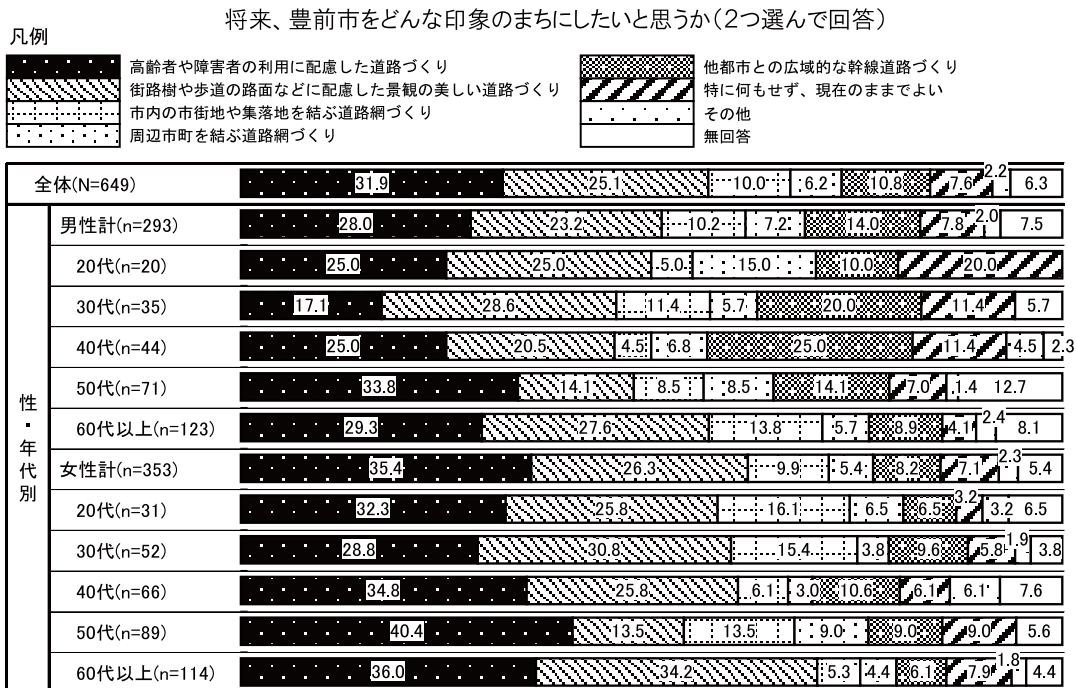
将来、豊前市をどんな印象のまちにしたいと思うかについて尋ねたところ、「安全で便利なまち」(13.2%)が最も多く、次いで「健康なくらしのできるまち」(11.4%)、「若者にとって魅力のあるまち」(11.3%)、「子供を育てるのに適したまち」(11.0%)、「老人にとって住みやすいまち」(10.5%)などの順となっている。



注:「2つ選んで回答」のため、全回答数(N=649)を2倍した数を全数としている。

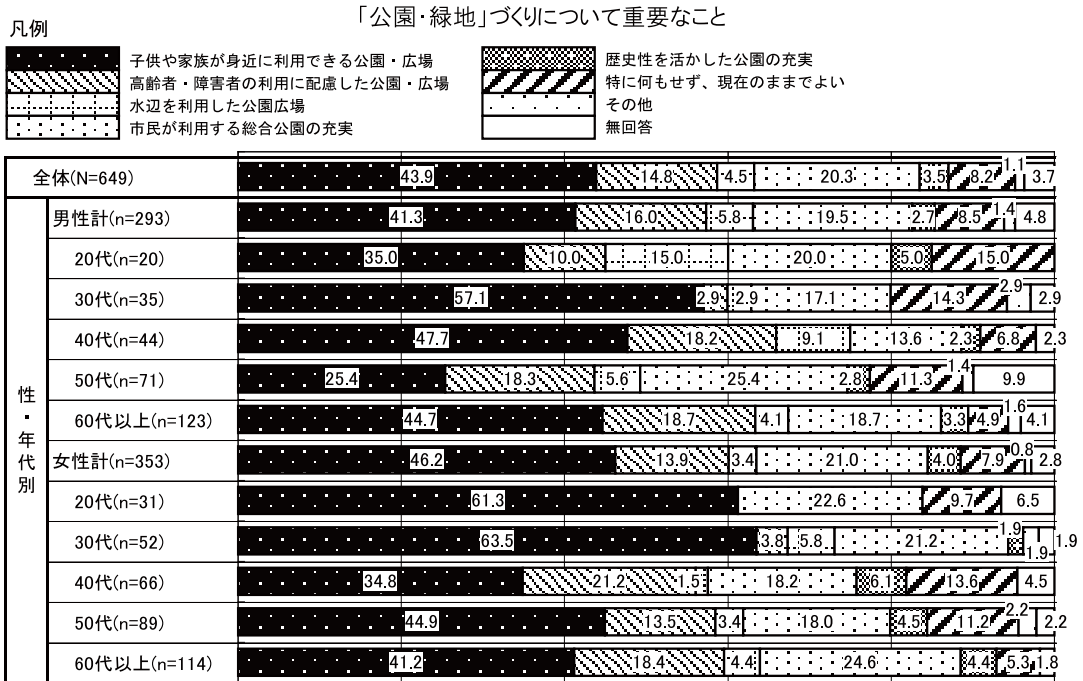
## ■「道路」づくりについて重要なこと

これからの豊前市の「道路」づくりについて、何が重要だと思うか尋ねたところ、「高齢者や障害者の利用に配慮した道路づくり」(31.9%)が最も多く、次いで「街路樹や歩道の路面などに配慮した景観の美しい道路づくり」(25.1%)、「他都市との広域的な幹線道路づくり」(10.8%)の順となっている。



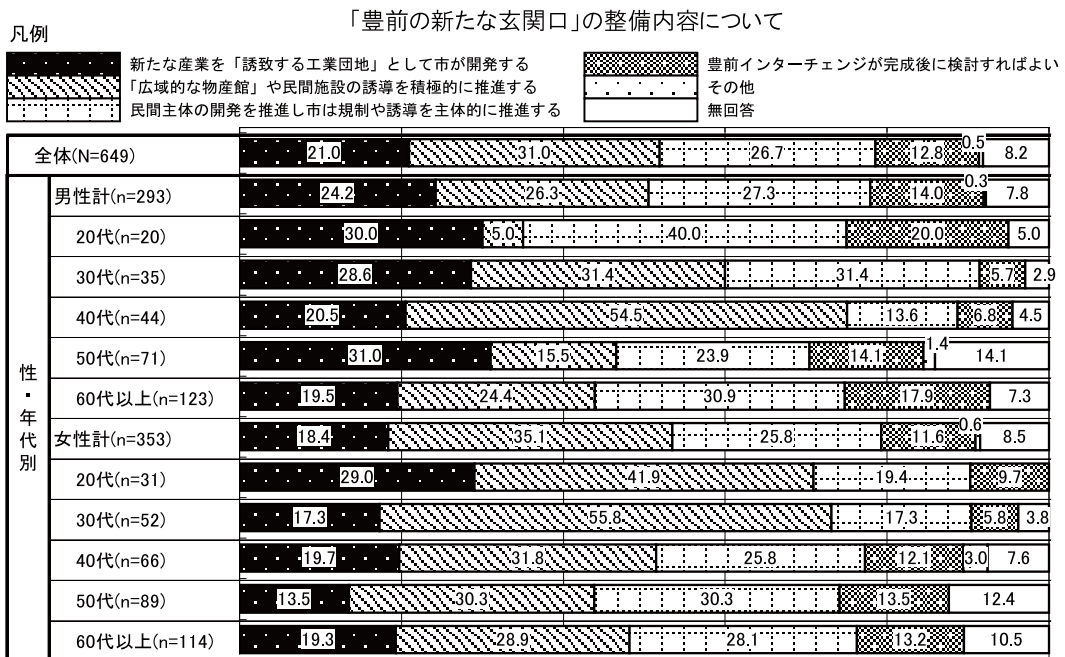
■「公園・緑地」づくりについて重要なこと

これからの豊前市の「公園・緑地」づくりについて、何が重要だと思うか尋ねたところ、「子供や家族が身近に利用できる公園・広場」(43.9%)が最も多く、次いで「市民が利用する総合公園の充実」(20.3%)、「高齢者・障害者の利用に配慮した公園・広場」(14.8%)の順となっている。



■「豊前の新たな玄関口」の整備内容について

「豊前インターチェンジ」周辺の土地利用計画として計画されている「豊前の新たな玄関口」の整備内容として、どのようなものが適当か尋ねたところ「広域的な物産館」や民間施設の誘導を積極的に推進する(31.0%)が最も多く、次いで「民間主体の開発を推進し市は規制や誘導を主体的に推進する」(26.7%)、「新たな産業を「誘致する工業団地」として市が開発する」(21.0%)の順となっており、民間施設などを推進するという意見が多い。



# 計画書の概要と策定経緯

## ■計画書の概要

『H22 年度版 豊前市都市計画マスタープラン』は、『H15 年度版 豊前市都市計画マスタープラン（都市計画に関する基本的な方針を定めるまちづくりの計画書）』の見直しを行ったものであり、住民に最も近い立場にある市町村が定めることとなっています。都市計画マスタープランは、本来都市計画区域を対象として定めることとなっておりますが、本市においては、都市計画区域にとらわれることなく、豊前市全体を対象としてまちづくりを考えています。

計画書の中では、まちの活性化、地域振興などの観点より、「賑わい」と「安らぎ」の共存するまちを目指し、都市づくりの具体性のある将来ビジョンを確立するとともに、地域のあるべき市街地像、地域の抱える課題に対応した整備・開発および保全の方針、市民の生活や経済活動などを支える諸施設の計画などを総合的に定めています。

## ■計画書の策定経緯

本市においては、計画の策定にあたり住民の皆様のもちづくりへの理解と参加を得ることが重要であると考え、平成 21 ～ 22 年度の 2 カ年にわたり以下に示す取り組みなどを通じ、官民協働の計画づくりを進めてまいりました。

### ★住民意識調査

…平成 21 年 12 月に 1,500 人（回収率 43.3%）を対象に実施しました

### ★「広報誌」における公表を実施してきました

### ★「ホームページ」における公表を実施してきました

## ■計画書の目標年次など

本計画書は長期的な視点のもと平成 42 年を目標年次として設定しています。また、本計画書は市などの将来ビジョンに大幅な変更があった場合、大規模プロジェクトが具体性を帯びてきた場合、および広域的に市の位置づけの変更があった場合などに、計画内容の整合を図るために適宜見直しを図っていきます。

この概要版は、『豊前市のまちづくり（H22 年度 豊前市都市計画マスタープラン）』をまとめたものです。

この概要版についてのお問い合わせは…

**豊前市 まちづくり課まで**

**Tel 0979-82-1111**

**Fax 0979-83-2560**